

主 題：尊い器

聖書箇所：テモテへの手紙第2 2章20－21節

今朝はⅡテモテ2章からごいっしょにみことばを学びます。一言お祈りしましょう。「恵み深い父なる神さま、あなたの尊いみことばをあなたが祝してくださるように、どうぞ、私たち一人ひとり、聞く者の耳を開いてくださり、あなたの真理をしっかりと聞き、それを悟ることができますように。あなたが働いてくださるときに、そのようなすばらしい主のみわざが為されますから、どうぞ、一人ひとりの心の中にあなたのみわざを為してください。この時間をまずあなたにお委ねしてイエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン」。報告の時にもお話したように、テネシー州のメンフィスから南へと車を走らせて行ったのですが、その途中、ミシシッピ州を通りました。そこで驚くほどたくさんの教会を見つけました。どこを行っても教会です。教会の隣にまた教会というほどたくさんの数でした。後で、ある牧師先生と話をしているときに、さすがにバイブルベルトと呼ばれるほどたくさんの教会があるアメリカの南部ですねと言いますと、でも、ほとんどの教会が問題を抱えているというのです。どんな問題かという、それぞれの教会がみことばに立ってその教えに忠実に従って行くよりも、これまでの伝統や人間の考えに従う教会が多いというのです。まさかと思いました。なぜなら、私たち外国人がアメリカという国について聞いたら、非常にクリスチャンが多いと言います。でも、彼の言っていることが間違いではなかったということは、実際に、いろいろな教会を訪問してみて、もちろん、今回だけではありませんが、そのことに気付かされました。不思議なことに、みことばを忠実に教え、その教えに従おうとすると、教会から反発が起きるといえる考えられないことが起こっているのです。もちろん、この問題はアメリカだけのことでなく、私たちの国日本でも同じです。皆さん、今、この時代、どの国にあっても神のおことばだけを聞くという、そのようなことへの関心を教会は段々もたなくなってしまう、関心が薄れてしまったのです。そのようなことより、私たちが教会に集った時に、気分がほっとするような、気分が慰められるような、そのようなメッセージを聞きたくなって来ているのです。今、教会は大変な時代に直面しています。でも、この問題は今のこの時代に始まったことではなく、パウロたちの時代でも、彼らは同じような問題を抱えていたのです。テモテが牧会していたこのエペソの教会においても同じような問題があったのです。教会の中に偽りの教えを持ち込む者たちがいたのです。教会は混乱していたのです。いったい何が正しいのかと。そういうことをよく知っていたパウロはこのテモテに対して、どんなときでもみことばに対して忠実であるようにと勧め励ますのです。

なぜ、みことばに対して忠実であるべきなのでしょう？それが神が望んでおられることだからです。それが神によって救われた私たち一人ひとりの神に対する最も大切な責任だからです。私たちがどんな働きをするかよりも、神のみことばに忠実に歩み続けようとしているのかどうか、私たちはそのことを考えなければならないのです。今日、私たちが考えたいこと、それは私たち一人ひとりがより神に用いていただくような器になって行くために私たちは何をしなければいけないのかということです。あなたがますます神に用いられて行くために、あなたが牧師でなくても宣教師でなくても、一人のクリスチャンとして神があなたを大いに用いるためにあなたには何が必要なのか、パウロはそのことを私たちに教えてくれます。

☆神に用いられて行くために必要なこと

2：20にはこのように書かれています。「**大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。また、ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用います。**」と、パウロは先ずこのようなたとえを語ります。だれでも想像がつきます。私たちの家の中にはいろいろな器があるし、いろいろな道具があります。いろいろなことに用いるものが家の中にはたくさんあります。パウロはそのことを使ってテモテに、そして、今の私たちにも大切なことを教えようとしているのです。見た通り「**金や銀の器**」は「**尊いことに**」用いられると言います。想像してください。金や銀の食器があるとしします。そういうものを使う時はどんなときでしょう？恐らく、毎日の普段の食卓で使う機会は少ないでしょう。でも、特別なお客さんや大切な人が来たときはそれを使おうとしします。金や銀という貴重なものは特別なときに大切な人のために使うのです。ところが、家の中には余り人目に付かせたくないものもあります。たとえば、ゴミやトイレのものなどは人目に付かないところに置きます。パウロが言うように、「**木や土の器も**」あって、その中の「**ある物は卑しいことに用います**」と。金のスプーンでゴミを掴んだりしないし、汚い泥のついたものでお客さんをもてなしたりはしません。パウロがテモテに言わんとしていることは、尊いことに用いていただける器とこれからなって行くように、主人にとって非常に大切なときに使いたいような、そ

ういう器となるようにと勧めるのです。このみことばを見ると、パウロはテモテにだけこの教えをしたのかというと、そうではありません。21節には「**ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は…**」とあります。ですから、パウロは「テモテ、あなただけではなく他の人でもこの教えをしっかりと聞いて、そのようにその人が歩んで行くな、その人も主人にとって役に立つものになる、主人にとって尊い器になる」ということを言っているのです。この20-21節を見ると、21節にある「**これらのことを**」という代名詞は複数ですが、これ以外のことばはみな単数形です。ということは、クリスチャンとしてどのように歩んで行くのか、それはあなた自身が決めなければいけない選択だということです。皆さん、イエスを信じているお一人ひとりはいくらからどのように生きて行くのか、その選択をしなければいけないのです。これまでも私たちはいろいろな選択をして来ました。ある人は正しい選択をして有効的に日々を過ごして来たことでしょう。ある人は神の前に無駄に時間を過ごして来たかもしれません。問題は今からです。パウロは「**だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら…**」と、私が教えるようにその人が歩んで行くなその人は主人にとって尊いものになる、価値あるものになると言います。ですから、それを決めるのはあなた自身だと言うのです。私はどのように生きて行くのかと…。そして、神がお用いになるのも個人です。私たち一人ひとりはどうのように主の前を生きて行くのかという選択をしなければいけないし、神はあなたを用いると言われました。もし、それにふさわしければ…。ですから、神はあなた個人をしっかりと覚えてくださり、あなた個人を用いようとしてくださっているのです。私たちが考えるべきことは、私が神に用いていただけるものになりたいかどうかです。では、どうすれば役に立つしもべになることができるのでしょうか？

1. きよくなること

21節には「**ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、**」と条件が記されています。それは「きよくなること」です。このことに関して二つのことを見ます。一つは道徳的にきよくなることと、もう一つは教理的にきよくなることです。この二つが神に用いていただくために必要だとパウロは教えてくれるのです。

1) 道徳的にきよくなる

これが神のみこころであることをパウロはもう私たちに教えてくれましたから、私たちはよく知っています。Iテサロニケ4:3に「**神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。**」とある通りです。では、どうすれば私たちはきよくなれるのでしょうか？同じIテサロニケ4:3b-6でパウロはこのように言っています。「**あなたがたが不品行を避け、:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、:6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。**」と、つまり、あなたが道徳的にきよくあり続けて行くために必要なこととしてパウロが教えてくれていることは、

(1) **汚れ、罪から離れること**：不品行を避けなさい、そのような情欲におぼれないように、そういうものから離れて行きなさいと言います。どんなに立派なクリスチャンでも自らをそのような誘惑にさらしてしまうなら負けてしまいます。私は強いから大丈夫と思っているなら大間違いです。私たちは弱いものです。だから、神の助けが常に必要なのです。では、神の助けをいただいて私はどんな誘惑にも勝てるのでしょうか、注意しなければいけないと言います。私たちはそういうものから遠ざからなければなりません。私たちを誘惑するもの、あなたは自分の弱さをご存じですから、その弱さを突いてあなたを誘惑へと導こうとするものから離れることです。アルコールの誘惑がある人はアルコールから極力離れることです。ポルノなどの誘惑がある人はそのようなものから離れることです。様々な誘惑が私たちの周りに存在し、そういうものに身をさらして行くな、私たちは必ず負けてしまう、だから、そのようなものを避けなさいと言うのです。簡単なことです。

(2) **罪を愛する人たちから離れること**：残念ながら、私たちの周りにはきよさを愛する人たちがばかりがいるわけではありません。どのようにして自分を楽しませるか、自分を満足させるか、そのようなことを考えて生きている人々が私たちの周りにはあふれています。だから、私たちがすることはそのような罪を愛する人たちから離れて行くことです。パウロはIコリント5:9-13でこのように教えています。「**私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。:10 それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだとしたら、この世界から出て行かなければならないでしょう。**」、パウロが言うことは、この世にいる私たちの周りには確かにこのような人たちがいる、そのような人たちといっさい付き合いをしないのなら私たちはこの世から出て行かなければいけない、けれども、私たちはその人たちの生き方を容認しているわけではないということです。続いて、「**:11 私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてはいけない、ということです。:12 外部の人**

たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。：13 外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい。」と、つまり、パウロが言いたいことは、教会の中においてクリスチャンだと自称しているけれど、その人たちの生き方は世の中の人たちと何ら変わらない、そのような人と一線を画しなさい、そういう人たちから離れて行きなさい、しかも、そういう人たちは教会から追い出しなさいと言うのです。なぜなら、教会の中がそのような罪に染まって行くからです。パウロは厳しいことを言うのですが、パウロが言っていることは明らかです。私たちが道徳的にきよいものになって行くためには、私たちはどういう人々とつき合うのかをよく考えなければいけません。Ⅰコリント15：33「**思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良い習慣がそこなわれます。**」、また、箴言13：20には「**知恵のある者とともに歩む者は知恵を得る。愚かな者の友となる者は害を受ける。**」とあります。旧約のソロモンも新約においてはパウロも私たちに教えてくれることは、友だちが悪かったなら悲しいことにあなたの生き方に影響を及ぼすということです。だから、私たちはどのような人と時間を過ごすのか、どういう人といっしょにいるのかをよく考えなければいけないのです。私たちはこの世にあって様々な誘惑に直面しているわけですから、私たちは未信者の方々と接するときよく考えなければなりません。もし、あなたを誘惑するようならそこから離れるべきです。しかも、私たちクリスチャンが覚えておくべきことは、その中にあって私たちはその人たちに伝道するためにそこに遣わされているということです。皆さんもよく経験されていることでしょう。自分がクリスチャンであることを公にすることは自分を守ってくれるすべです。いろいろな誘いを断ることができます。もちろん、クリスチャンですと表明することは勇気があることですが、そのことを明らかにすることは自分を守ることになります。そして、今見て来たように、クリスチャンと呼ばれている人たちにおいて、このような罪の生活をしている人たちがいるなら、彼らを追い出しなさいと言います。もし、本当に彼らがクリスチャンであるなら、そのように交わりが断たれることによって、彼らは自分のしていることの過ちに気付いて悔い改めて立ち返ってくる可能性があるからです。いずれにせよ、私たちがみことばから教えられることは、自分自身が罪から誘惑から極力距離を置くだけでなく、そのような人たちからも離れて行くようにと、自分を道徳的にきよく保って行くためのすべをパウロは教えるのです。もう一つ、彼が私たちに教えることは、

2) 教理的にもきよくあること

どの時代でも、教理的な誤り、間違った教理は教会の中に入って来ます。そして、それによって人々は混乱します。Ⅱテモテに戻って、2：17を見ると「**彼らの話は癌のように広がるのです。ヒメナオとピレトはその仲間です。**」と、二人の人物の名が記されています。どんな人たちだったのでしょうか？ヒメナオという名はⅠテモテにも出て来ます。「使徒の働き」を見てもエペソの教会の中にこのような人たちの名が出て来ますが、私たちが見るべきことは名前よりも彼らの問題です。18節に「**彼らは真理からはずれてしまい、**」とあり、このような問題があったのです。この「**はずれる**」というのは「**的を外す**」という意味で「**罪**」ということばがもつ意味と同じです。「**的を外す、迷い出る、正道から外れて邪道に迷い出る**」という意味をもったことばがここで使われているのです。だから、この二人の人物が代表として記されているのでしょう。このような彼らの教えに耳を傾けて心奪われた人たちがたくさんいたのでしょう。彼らは神のみことばの真理から迷い出て、真理ではないことを教えるという大きな問題を起こしていたのです。その後には「**復活がすでに起こったと言って、ある人々の信仰をくつつがえしているのです。**」とあり、つまり、彼らの間違いは復活に関することでした。もう復活がすでに起こった、これから後には復活は起こらないというのです。肉体的な復活などないという教えです。これはこの当時において非常にポピュラーなよく知られた教えの一つでした。そういう教えが入り込んだのです。そして、パウロたちが教えて来たように、私たちは必ず肉体をもってよみがえるという教えに真っ向から反対をして、そういう復活はないと教えたので人々は混乱したのです。

このような間違った教えが入って来たとき、私たちは今、神のおことばをいただいているゆえに、私たちはそこに戻ればいいのです。いろいろなところを回って多くのクリスチャンたちにお会いしたとき、必ず出て来る問題は、信仰の浮き沈みの激しい人、信仰がすぐに弱ってしまう人たちに共通していることは、彼らは聖書に立っていないのです。彼らの信仰はある経験や感情に立っているのです。そういう信仰者はとても弱いです。「今、救われているように感じます」などと言う人、「今、主が近くにいてくださるようになって感じています」と、そのような信仰であれば、このような間違った教えが入って来るならすぐに惑わされてしまいます。私たちはみことばに戻ることです。パウロはそのことを私たちに教えてくれています。Ⅰコリント15：13－17「**もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。**」、イエスが復活したという事実は死人がよみがえるということの証拠だと言います。しかも「**：14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。**：15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜ

なら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。：16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。：17 そして、もしキリストがよみがえらなかつたのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。」と、つまり、キリストが肉体をもって死からよみがえって来た事実は、私たちに救いを確立し、すべての人間が死んだ後よみがえることを証し、また、イエスは死に勝利したお方であること、罪に打ち勝たれたことを明らかにするのです。だから、イエスを信じる私たちも同じように罪に死に勝利することができるのです。そして、イエス・キリストが肉体をもって死からよみがえって来た事実はイエスが真の神であることを明らかにします。ですから、それを否定するということはこれら全部を否定することです。私たちは肉体をもってよみがえることもないし、イエスを信じることによって救われることもないし、イエスが神であることも否定するのです。このような教えが入り込んで来たパウロは言います。そして、その教えに惑わされてしまった人たちがいるのです。教理的な汚染は、どの時代にあってもどこの教会にあっても起こり得ることです。私たちがすべきことは、語られていることが本当に聖書が言っていることなのかを吟味しなければいけないのです。皆さんも恐らく、キリスト教の書店に行かれたり、「クリスチャン新聞」や「百万人の福音」などを読まれていろいろな情報を得ておられることでしょう。そこに書かれていることが全部正しいのではないし、本屋で売られているものが全部正しいのでもありません。どちらかというと、間違った教理のものが溢れています。私たちはそこで言われていることが聖書がいつていることなのかどうかを正しく吟味しなければいけないのです。ベレヤのクリスチャンたちがそうしたように…。彼らはパウロたちのメッセージを聞いたとき、それは聖書が言っていることなのかどうか、本当に神のみことばに一致したことなのかを吟味しました。私たちもそのようにしてメッセージが、書物が神のおことばに沿っているものなのかどうかをしっかりと吟味しなければならぬのです。間違った教えはいろいろな方法で入ってきます。私たちはそれを食い止めなければいけません。道徳的なきよさだけではありません。教理的なきよさも必要だと言うのです。

この「ヒメナオとピレト」がしていたことをもう少し説明します。14節を見てください。「これらのことを人々に思い出させなさい。そして何の益にもならず、聞いている人々を滅ぼすことになるような、ことばについての論争などしないように、神の御前できびしく命じなさい。」、偽りの教師たちは教会の中に入り込んで来て、神のおことばを語ったのではありません。彼ら自身が信じていることを巧みなことばで語って人々を惑わしていたのです。だから、ここにあるように「ことばについての論争」と言います。16節には「**俗悪なむだ話**」とあります。なぜなら、神のおことばではなかったからです。神のおことばだけが価値あるのです。どんな立派な人のことばを聞いてもそれは人のことば、人の考えです。そのようなものが私たちを救いません。私たちの生き方を変えません。神のおことばにその力があるのです。偽りの教師たちは教会の中に入って来て彼らは神の真理ではなく、人間の考えを持ち込んで人々を惑わしたのです。ですから、神の真理を汚して人々を神から遠ざけ不敬虔な生活へと導いて行つたのです。そこでパウロはテモテに対して15節「**あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。**」と教えます。なぜ、このようなことをパウロはここで言っているのでしょうか？最初から見ているように、パウロがテモテに教えたかったことは、「テモテよ、私があなたに命じることは、どんな時代でもどんな場所にあつても、あなたの使命はただ一つ、神の真理のおことばを真っすぐに正確に語って行きなさい。それがあなたの努めだ。」ということです。そして、皆さんよくご存じのみことば3：16「**聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。**」を語っています。パウロはなぜここでこのように教えるのでしょうか？必要なのは聖書だからです。神が私たちに託してくださったメッセージは聖書なのです。そのみことばを語るとき、神はそのみことばを使って聞いている一人ひとりの心の中にわざを為すのです。よく私たちも聞かされることですが「今日のみことばは私のために語られているようです」と言われます。聖書のことばはそうに私たちを責めます。聞きたくないことを聞かされることもあります。同じみことばを聞いても、ある人は責められるけれどそうでもない人もいます。でも、神はそうにして同じみことばを聞いている人々の中で、様々なわざを為されるのです。なぜなら、「**聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。**」、聖書のことばは私たちを変えて行きます。聖書は私たちに罪を示し、私たちにどのように生きて行けば良いのかを教えてください。そのような働きをみことばは為すのです。だから、みことばを語りなさいと言つたのです。

先日訪問したアトランタで、牧師先生が「この番組を見て…」と言われ、ある教会の礼拝を見ました。アメリカではテレビで教会の礼拝を見ることが出来ます。4万人が集まっている教会ということです。そこで牧師がメッセージをしているのですが、1回も聖書を開けませんでした。語られていたメッセージの内容は「どうしたらより良い人間関係を築いて行けるのか」ということでした。アトランタの牧師

先生はどのようなメッセージが語られているのかとたまにその番組を見るが内容はほとんど同じだと言われました。また、メンフィスで第一礼拝の時間に私は日本人が集まっているその大きなアメリカ人のバプテスト教会の礼拝に出ました。礼拝に来られた方々は礼拝中一度も聖書を開けなかった、〇〇の箇所を開いてくださいということがなかったのです。確かに、1～2度、聖書のことばを引用されましたが、聖書を開くことがないから教会に聖書を持って来る必要がないのです。そこでも語られていたのは「どうしたら良い人間関係を築けるか」でした。私を連れて行ってくれた人が「大変申し訳ありません。今日は一度もみことばが語られなかった」と言われ、それを聞いて私はほっとしました。たくさんの方が礼拝に集まって来ます。そこで語られるメッセージは聞いていて何の罪も責められないし、居心地がいいのです。どうすれば職場で良い関係が築けるかとか、どうすれば人を赦してあげられるかという話なのです。それを聞いていて思いました。パウロはこのⅡテモテ4：2－4でこのように警告しています。2節「**みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。**」とそれが為されていないのです。「Ⅱ：3 というのは、」と、なぜ、そのようにしなければいけないのかその理由が続いて書かれています。「**人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、Ⅱ：4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。**」と、今、まさにそういう時代なのです。私は決して私たちの教会が完全だと言っているのではありません。しかし、世の中のキリスト教会の流れはまさに聖書が言っているとおり、世の終わりの時代に直面しているのです。そのことを私たちに教えてくれます。教会は神のおことばを語ってくれる人は必要としないのです。彼らは自分の聞きたいことを語ってくれる説教者が必要なのです。彼らは教会に行つて罪が責められるのはいやなのです。自分のしていることが責められるのがいやなのです。教会からはある種の励ましをもらったらそれでいいのです。だれの教会でしょう？何のために教会は存在しているのでしょうか？キリストのものであり、キリストの栄光のためであるなら、どうすればそのような教会を築いて行けるのか、みことばが私たちに教えてくれるのは、みことばを伝えなさい、神のおことばを正確に正しく伝えて行きなさいということです。

エレミヤはこのようなことを言いました。23：28「**夢を見る預言者は夢を述べるがよい。しかし、わたしのことばを聞く者は、わたしのことばを忠実に語らなければならない。**」。このような教理的な問題があります。このような問題に教会は直面しています。気を付けなければ、このような問題はすぐに広がってしまいます。Ⅱテモテ2：17に「**彼らの話は癌のように広がるのです。ヒメナオとピレトはその仲間です。**」とある通りです。このことばは「壊疽」ということばが使われていますが、そのようにからだの一部が死んで、それが広がって行くようにと言います。そして、その毒性は18節にあるよう「**…ある人々の信仰をくつがえしているのです。**」、「**くつがえす**」とは「投げ倒す、ひっくり返す」ということで、つまり、真理から離れて行く、信仰を弱らせて行くということです。そういう結果をもたらす、だから、私たちはそういう偽りの教師を教会から除いて行かなければいけないのです。それは人物だけではありません。間違いをもたらす教えの本を除かなければなりません。私たちは様々な面で間違つた教えにさらされているのです。パウロはⅠテモテ1：20で「**その中には、ヒメナオとアレキサンデルがいます。私は、彼らをサタンに引き渡しました。それは、神をけがしてはならないことを、彼らに学ばせるためです。**」と記しています。彼らが自分たちの過ちに気付くように、悔い改めて神に立ち返るようにと言うのです。

さて、私たちは今日、神の前に尊い器になるために、神がお使いになる器、そういう器になるために何が必要かを見て来ました。きよさです。道徳的なきよさであり、教理的なきよさが必要だと、しっかり自分自身を罪から守りなさい、同時に、みことばの真理から外れるようなことがあってはならない、みことばの真理にしっかり立ちなさいとパウロは教えました。そして、その「器」についてパウロはこのような説明を加えます。21節を見てください。「**…その人は尊いことに使われる器となります。**」とあり、そして、その器は「**聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。**」とその説明がされています。しかも、ここで使われている「**なります**」ということばの時制は未来形です。ですから、パウロはここで「**そういう人はこれからますますこのような人になって行きますよ**」ということを言っているのです。(1) **より聖められたものになって行く**：この「**聖められた**」ということばを見ると、これはもうすでに起こつたこと、完了形で、しかも、受身です。つまり、パウロが言っていることは、あなたはイエスを信じたときにあなたは神によって神の前にもうきよいものにされた、そのあなたがもつときよいものに変えられて神に役に立つものになって行くということです。(2) **主人にとって有益なものになって行く**：主人にとって、神にとって役に立つものになって行くということです。イエスにとって役に立つもの、イエスが喜んで使ってくれるようなそのような者に私たちが変わって行くということです。(3) **あらゆる良いわざに間に合うものになって行く**：より良いわざを行なうものになるのです。この「**間に合う**」ということばも「準備を整える、備えをする」という意味で、もう実

にあなたはより良いわざを行なうものにされたと、ここも完了形の受身を使っています。そうすると、パウロが言うことは、救われた人、本当のクリスチャンというのは、神によって罪赦されきよめられたものであり、良い行ないをするために生まれ変わった人です。パウロはエペソ 2：10 でこのように言いました。「**私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。**」。そして、パウロはそのことを教えた上で、そういう人としてあなたはますます変えられて行くということを言っているのです。もっときよめられ、ますます良いわざを行なうものになり、イエスにとって役立つものへとどんどん変わって行くと言います。それは私たちがきよいものになることによって、罪から離れることによってです。

今日、パウロが私たちの教えてくれたこと、クリスチャンである皆さん、神は私たちを使ってくださいなのです。私たちはいろいろな言い訳をするかもしれませんが、でも、神は私を使ってくれると言われるのです。そのことを今私たちは見て来ました。しかし、そのためにはあなたには大きな責任があるのです。あなたは今日からどのように生きて行くのかという責任です。あなたは罪から離れることです、間違った教理から離れて行くことです。しっかりみことばに立つ者としてみことばに従って歩んで行くことです。そうすれば、神はあなたを使ってくれるのです。非常にシンプルです。問題はそれを行なうかどうかです。神にとって役に立つクリスチャンになりたいと思われませんか？神が喜んで使ってくれるような、そういう働き人になりたいと思いませんか？クリスチャンである皆さん、あなたはそういう人になれるのです。神がそういう人にしてくれるのです。あなたが今日教えられたこの神の教えを受け入れて従うなら…。どうぞ、きよいものになってください、道徳的に、教理的において、そして、神に用いていただくなら、それこそ救われた私たちにとって最高の喜びではないでしょうか？それこそ救われた私たちにとって最高の幸せではないでしょうか？神が使ってくださる、ご自身の栄光のために。そんな人に変わりましょう、皆さん！神にとって役に立つ尊い器に。

《訂正とお詫び》

9／2の礼拝メッセージ「イエスは我がいのち」（ポール・フェリックス師）の中で間違いがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。2頁目の中ほどに祭司アウグストとありますが、それはアウグスティヌスが正しい名前です。